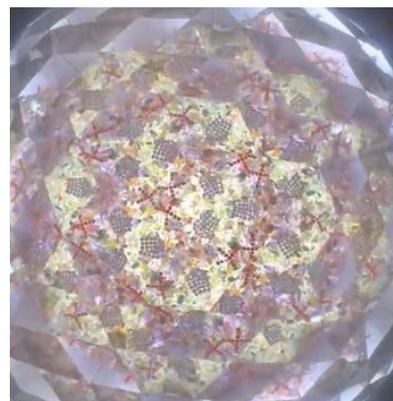
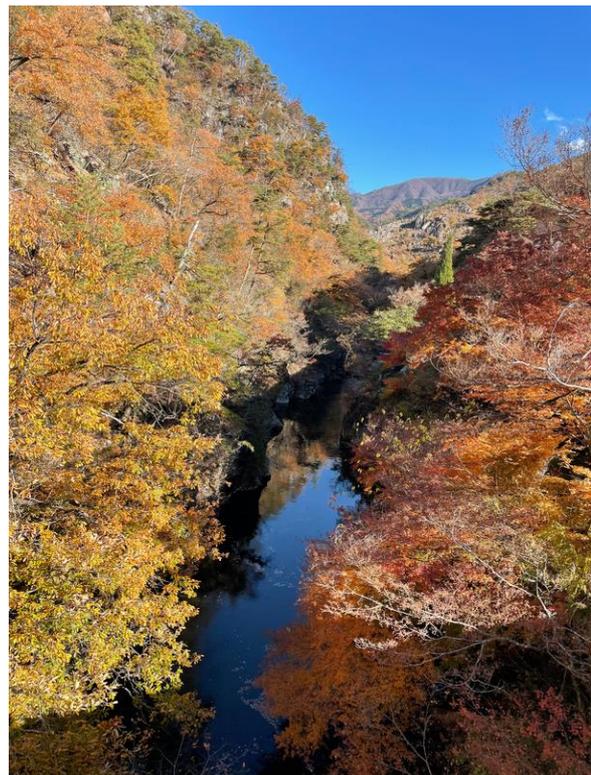




# 御嶽昇仙峡

山梨県立甲府第一高校  
3年探究科10班

Mitake Shosenkyo



# 目次

1. 自己紹介 P.2
2. 昇仙峡とは P.3.4
3. 昇仙峡の歴史 P.5.6
4. 新道開削 P.7
5. 新道開削の経緯 P.8
6. 昇仙峡と一高の関わり P.9
7. 徽典館 P.10
8. 徽典館の人々 P.11.12
9. 仙嶽關路図 P.13.14
10. 昇仙峡を詠んだ詩 P.15
11. 友野霧舟について P.16
12. 昇仙峡を訪れた文人たち P.17.18
13. 昇仙峡が広まった理由 P.19
14. あとがき P.20
15. 昇仙峡おすすめスポット P.21

# 1.自己紹介

- 山梨県立甲府第一高等学校  
探究科 3年10班(2023年度)
- 探究顧問:小泉小百合
- 班員:堀口蒼衣 手塚義希 中希博  
小池芽依 堀内美佑 永井伶旺

## ごあいさつ

私たちは高校1年生の頃から昇仙峡を探究し、昇仙峡の歴史や昇仙峡と私たちの通う甲府第一高校との関わりを調査しました。

昇仙峡の美しい景色の背後には、昇仙峡に関わった多くの方々の地域愛や神秘、苦悩、そして昇仙峡への希望が隠されていました。

このような、多くの人々の想いが詰まった昇仙峡の"story"をより多くの方に知っていただき、「昇仙峡」を後世にも繋げていくことが私たちの目標です。

昇仙峡の美しい情景を  
昇仙峡の歴史とともに  
多くの方々にお届けします!

## 2.昇仙峡とは



出典:甲府市役所HP



### どんな場所??

「昇仙峡」は、甲府市・甲斐市に位置する渓谷で正式には「御嶽昇仙峡」と呼ばれます。通常は、天神森の長潭橋から仙娥滝までの約4.1キロを指します。そして現在、「昇仙峡」と呼ばれる道が『御嶽新道』であり、この道ができる前までは「御嶽古道」という険しい道を使っていたそうです。

### 昇仙峡での観光

昇仙峡は、数多くのパワースポットがあり、とても神秘的な場所として有名で、水晶発祥の地とされています。また、昇仙峡は四季折々で違う姿を見せてくれます。最も人気なのは、秋の紅葉シーズンですが、秋だけではなく春、夏、冬にも多くの見どころがあります。どの季節でも楽しむことができるので、それぞれの季節の昇仙峡のお気に入りポイントを探すこともひとつの楽しみです。

## 昇仙峡の名前

「昇仙峡」という名前の由来は、明確にはされていませんが、「昇仙峡」という名前は、明治20年以降に呼ばれ始め、昭和初期に定着していることが分かっています。

昇仙峡の名前の由来を検討した石原初太郎は『御嶽昇仙峡と其奥』で“昇仙峡とは仙人の住むような清浄な場所(金峰山)に昇る溪谷の意味だろう”と書いています。

昭和3年発行の「中巨摩郡志」は、“仙娥滝直下の橋の上に立って左右を見れば羽化当仙の境地となることに由来する”と述べています。

また、明治13(1880)年に、仙娥滝の下に設けられた板橋を新たに架けなおし、「昇仙橋」と名付けたのが「昇仙」の文字を使用した初の事例です。

そして大正11年、当時の皇太子(後の昭和天皇)の御岳行啓の翌日の新聞には「御岳昇仙峡」の名が大きな文字で登場しました。

このようなことから、「昇仙峡」の名は、清浄であり、「仙娥滝」とも関わりががることがわかります。「昇仙峡」という名前が広まった大きな理由としては、皇太子による御岳行啓だと考えられます。

## 昇仙峡の主要スポット

- 覚円峰
- 仙娥滝
- 遊歩道
- 石門
- 長潭橋
- 弥三郎岳

# 3.昇仙峡の歴史

天保4年  
1834

長田円右衛門が道を切り開く  
(新道開削が始まる)

天保14年  
1843

**9年の月日を経て御嶽新道が完成!!**  
また、甲府勤番支配浅野梅堂をはじめ、  
徽典館学頭や江戸の昌平黌関係者や  
有力商人など1300人を超える  
寄付が行われた

1854

浅野梅堂の  
プロデュースにより  
「仙嶽關路図」が  
出版される



明治20年  
1887

「昇仙峡」と呼ばれ始め、  
昭和初期に定着

「九州大演習の際、耶馬溪を見たが、  
御嶽の勝地には遠く及ばない。  
耶馬溪以上である。」

大正11年  
1922

10/7

当時の皇太子(後の昭和天皇)が  
昇仙峡を訪れる

当時、日本で最も美しい渓谷と言われ  
ていた、大分県にある耶馬溪よりも昇仙  
峡は美しいというおことばを貰う。



昇仙峡が日本で最も美しい渓谷となり、  
多くの人が押し寄せた。

1923

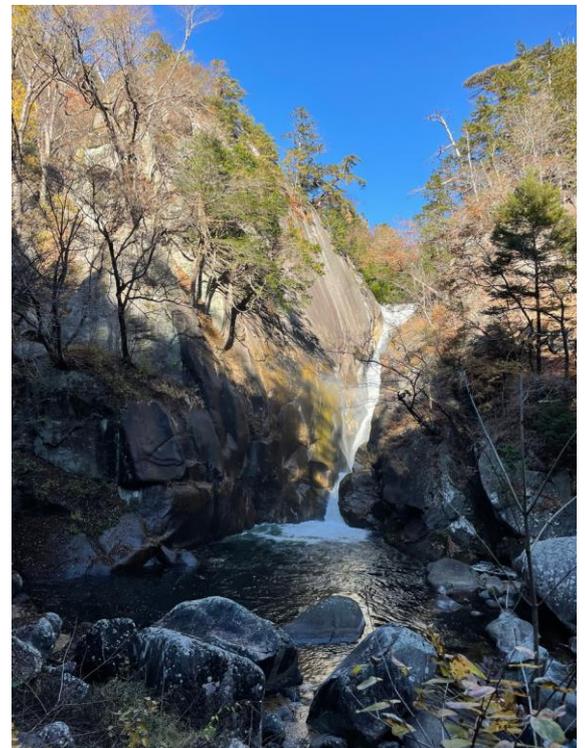
国名勝指定

1953

国指定特別名勝

令和2年  
2020

日本遺産登録



# 4.新道開削

## 新道開削とは

江戸時代(1830年代)に、当時、猪狩村(現在の甲府市猪狩町)で暮らしていた「長田円右衛門」が、周辺の人々の生活を向上させるために道を切り拓いたことに始まる。

江戸時代、長田円右衛門が暮らしていた、当時の「猪狩村(現:甲府市猪狩町)」は平地が乏しく、稲作が行えず、現金収入を得るために山仕事で生産する薪や炭を、急で険しい山道を一日かけて下り、甲府城下町へ売りに行っていた。

このような厳しい生活から、長田円右衛門は、猪狩村の人々のためにも、甲府へ抜ける近道を作りたいと思うようになった。

## 長田円右衛門とは

1795～1856年。猪狩村出身の農民。

最初に新道開削を志した長田森右衛門の親戚であり、新道開削を最後まで成し遂げた人物である。

# 5.新道開削の経緯

**1782年** 長田森右衛門(長田勇右衛門の父)が猪狩村から下帯那村(現:甲府市)へ抜けるルートを立案する

⇒森右衛門が亡くなったため計画は挫折

**1797** 円右衛門の祖父の長田伴右衛門が再び新道開削の計画を立てる

⇒成就の願をかける旅の途中で病死

**1833** 名主の長田勇右衛門とその甥の長田円右衛門が新道開削への挑戦を決意

**1834** 猪狩村全戸の賛同を得て、  
新道開削スタート!!

開削中

コースの変更や、豪雨・大飢饉が起こったり、さらに村と長田円右衛門が対立したりと大変な時期が多かった。

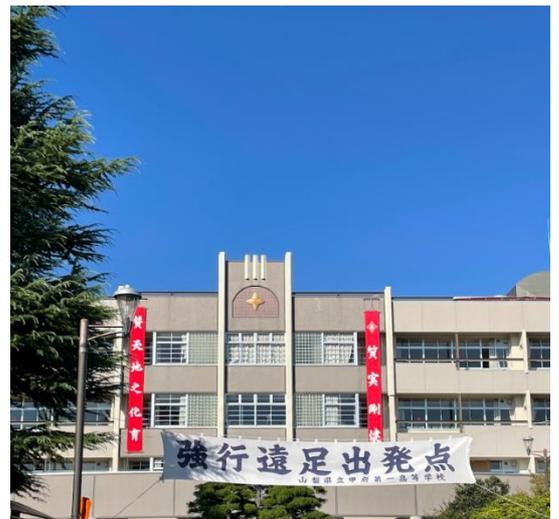
⇒結局、長田円右衛門が独断で行動することが増えてしまった

**1843** 9年の月日を経て、「御嶽新道」が完成!!

# 6.昇仙峡と一高の関わり



一高は江戸時代にあった甲府学問所「徽典館」  
がそのルーツとされている。その初代学頭であった、  
友野雄助、乙骨耐軒、彼らを  
招いた当時の甲府勤番支配  
であった浅野長祚らは  
昇仙峡の新道開発の  
資金援助をした。



他にも一高の第一回強行遠足(1924)  
は昇仙峡を経るルートであったと伝えられている。

# 7. 徽典館

「徽典館」とは…?



甲府勤番支配の役宅に設けられた甲府学問所。地域社会の中心的教育機関となっていた。1834(天保14年)から幕末にかけて江戸の昌平黌から学頭2名が派遣され、多くの生徒たちが徽典館で学んだ。

幕府内切手の開明派人材(岩瀬忠震、永井尚志、矢田堀鴻、田辺太一、中村正直)など次々と学頭に抜擢されており、徽典館は幕末史の中でも異彩を放つ学校であった。徽典館歴代学頭の名前を見渡せば、幕末の開国から近代化への意思が色濃く反映されている。幕末、明治の外交と近代化に貢献し、個性的ともいえる足跡を残した人物が並ぶ。中でも、林鶴梁は、御嶽昇仙峡の開削を成し遂げた長田円右衛門とは格別に親交を結んだ。

# 8. 徽典館の人々

## 友野霞舟(雄助)

『仙嶽關路図』に載せる詩を9首書き下ろした。昌平黌教授。江戸時代後期の官学派の代表的漢詩人。甲府勤番支配であり、徽典館学頭と共に昇仙峡を世に広めた浅野梅党の漢文学の師でもある。

## 乙骨耐軒(彦四郎)

友野と同じく、『仙嶽關路図』に9首書き下ろした。浅野梅党とは友野霞舟の兄弟弟子。徽典館は明治維新で一時休業したが、すぐ再開され、その後開知学校、師範学校等と名称と所在地の変遷を重ねつつ、山梨県立甲府第一高等学校や日川高等学校、山梨県立中央病院の歴史とも交差しながら、連綿として現在の、山梨大学教育学部へと繋がっている。

# 岩瀬忠震(修理)

13代将軍徳川家定の  
将軍継嗣問題で  
徳川慶喜を支持する  
一橋派に属していた

安政の大獄で  
井伊直助によ  
り疎まれ、左  
遷される



外国の植民地支  
配を回避したと  
評価されている

1850年代に、江戸幕  
府が結んだ外国(露・  
米・英・仏・蘭)との5  
つの修好通商条約の  
全てに立ち会い、調  
印、署名をしている

# 9.仙嶽關路図

せんがくへきろず



“

刊行者:浅野梅堂

題箋:岩瀬忠震

扉:戸川蓮仙

詩:友野霞舟

(九首)

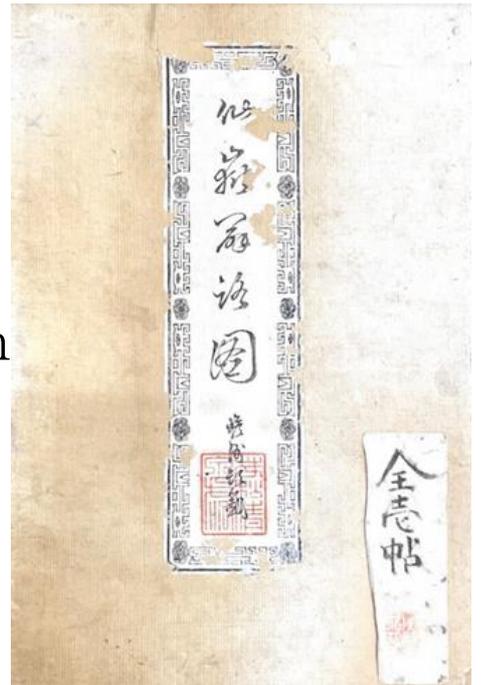
乙骨耐軒

(九首)

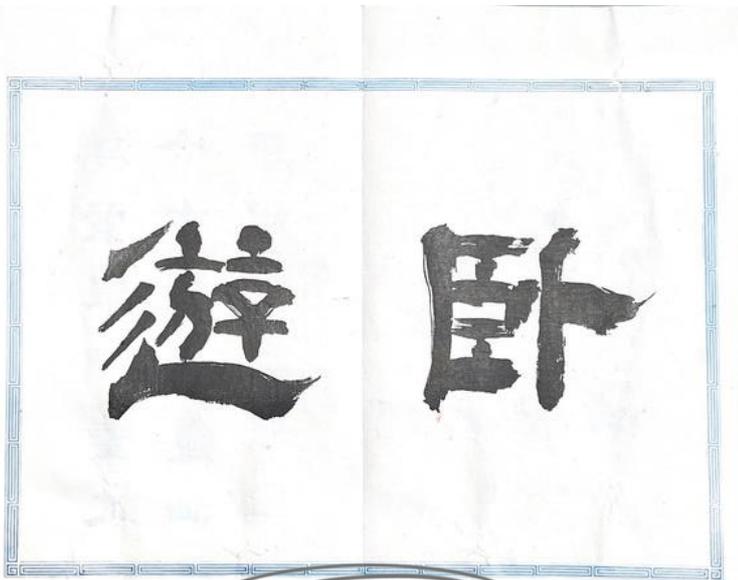
画:竹邨三陽

彫刻:後藤鍋吉

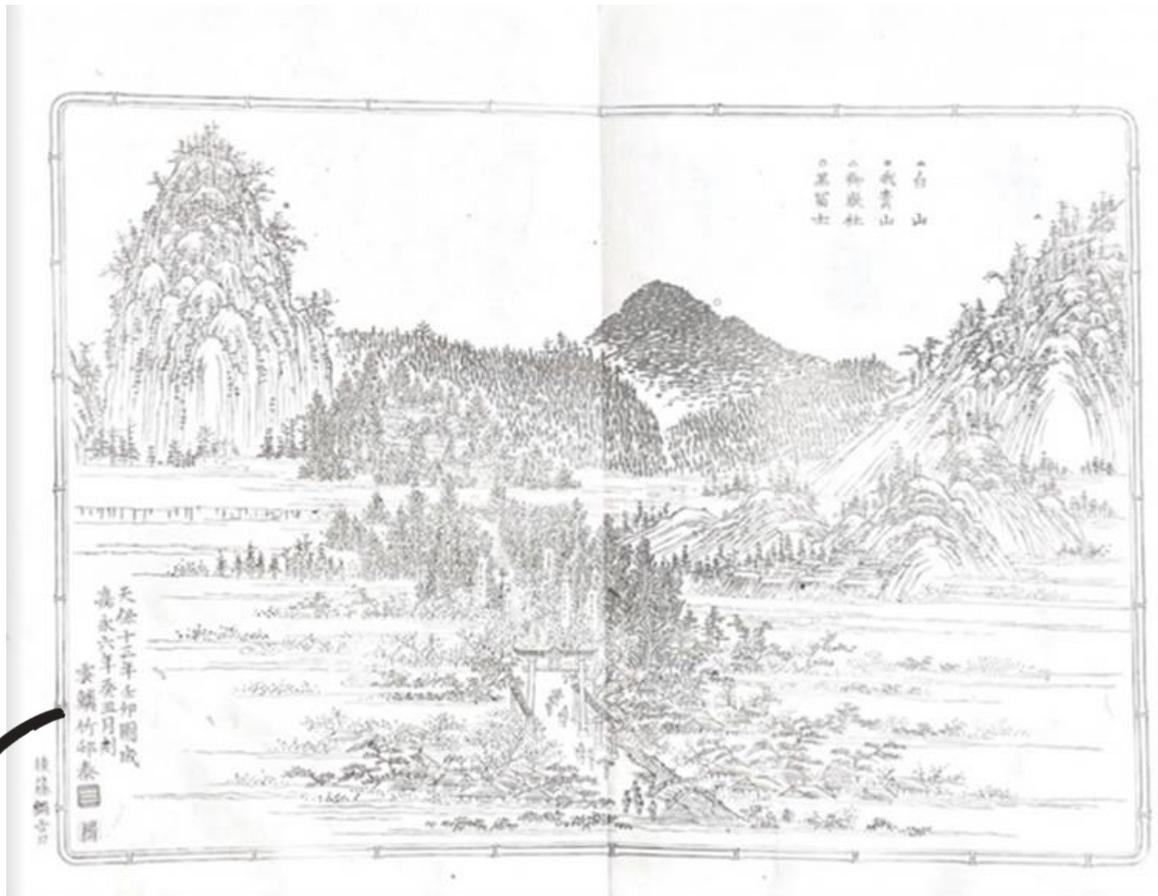
25cm



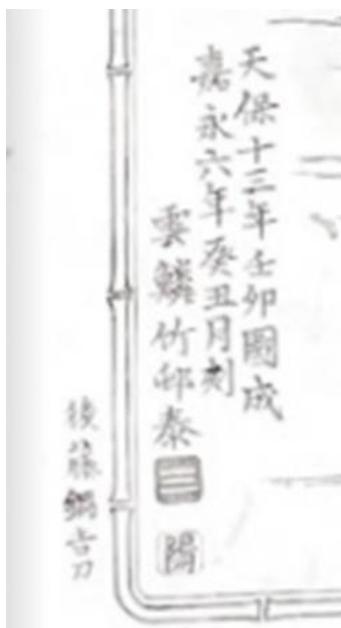
16cm



扉:戸川蓮仙



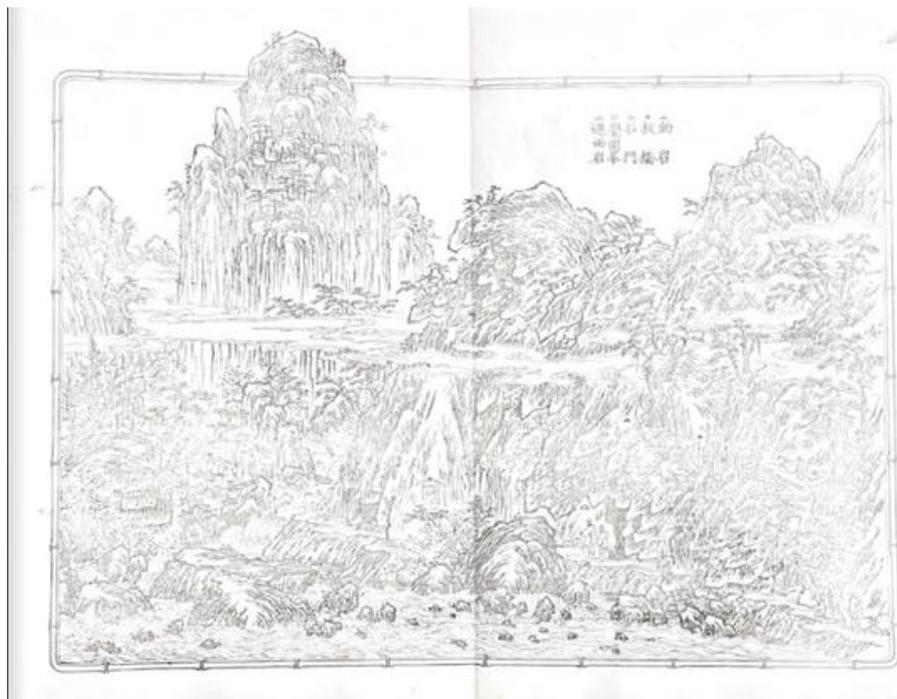
画：竹邨三陽、刻：後藤鍋吉



# 10.昇仙峽を詠んだ詩

## 友野霞舟の詩

覺圓峯  
昔有翠霞寂寂靜生  
翠一微兮山風吹潤  
壑透傳鈴鐸音  
雲迷行路杳々何  
處尋



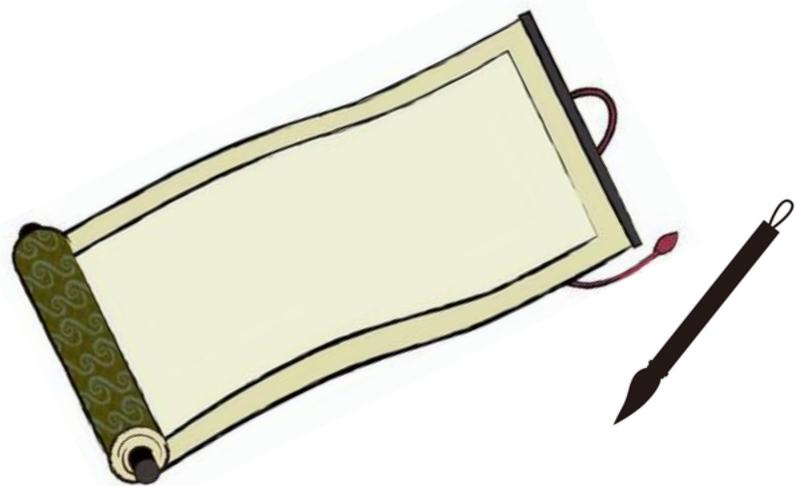
# 11.友野霞舟とは

江戸時代後期に活躍した漢詩人の一人。  
幼いころから英敏をもって知られ、詩文を口ずさむと  
たちまち章をなすというくらいだった。

博識である彼は、質問されるとその答えはどの書物の  
何巻のどこにある、とまで指示できたという。

友野は徽典館の学長のほか、自身も学んだ、江戸  
幕府直轄の学校である、昌平坂学問所の教授を務  
めた経歴を持つ。

昇仙峡を世に広めた、浅野梅党の漢文学の師で  
もある。



# 12.昇仙峡を訪れた 文人たち

昇仙峡の溪谷美を詩として私たちに伝えてきた文人たちが多くいる。

## 歌人

与謝野鉄幹

与謝野晶子

与謝野夫妻は、昇仙峡を訪れた際、  
数多くの歌を詠んでいる

深山なる 仙娥の滝の 上にて  
散る木の葉愛ず 星の明かりに



出典：山梨県立文学館

## 〈小説家〉

- ・徳富蘆花
- ・芥川龍之介
- ・松本清張
- ・西村京太郎
- ・山口瞳
- ・津島佑子

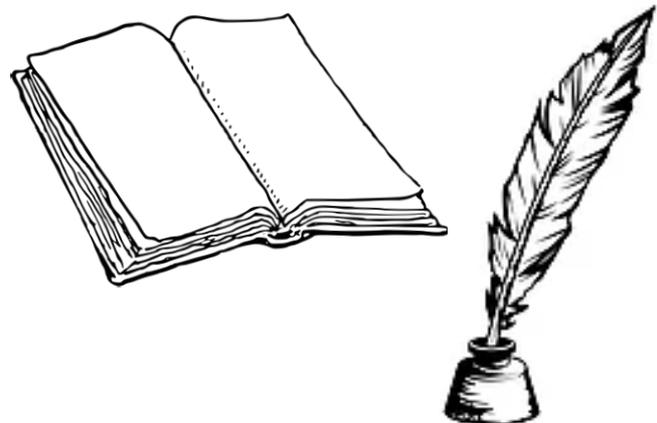
「シャボン玉」などの童謡や民謡、校歌の作詞をした。日本以外にも韓国、中国、台湾の校歌にも携わった。

## 〈詩人〉

野口雨情

## 〈歌人〉

- ・伊藤佐千夫
- ・窪田空穂
- ・与謝野鉄幹
- ・与謝野晶子



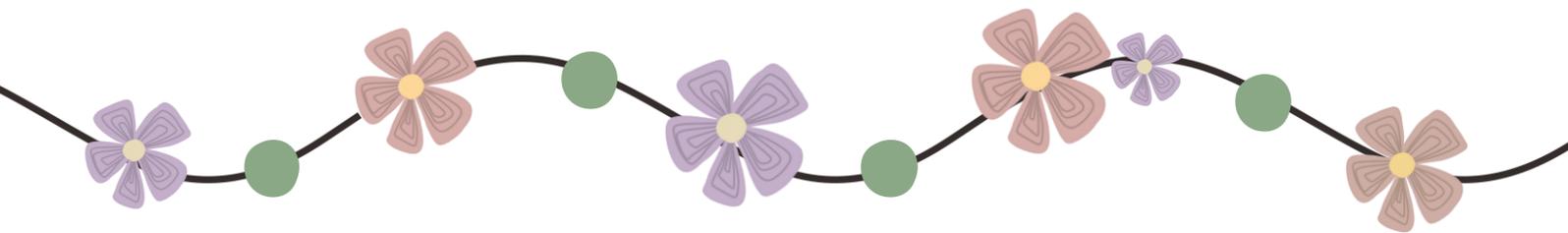
# 13. 昇仙峡が広まった理由

今日まで、昇仙峡は山梨を代表する観光地として、多くの人に伝えられてきた。その美しさが人々に広められたことにも、昇仙峡の歴史は関わっている。

新道開削の中心人物である長田円右衛門は、開削の資金集めとして、徽典館をはじめとする諸機関へとその人脈を広げていったとされている。

その後、新道が完成してからも、その人脈が生かされ、新道を含む昇仙峡の魅力は多くの人に伝えられた。

このように、昇仙峡の歴史と深く結びつく徽典館だが、徽典館の人物の中でも特に浅野梅堂は、昇仙峡の溪谷美を徽典館の人々だけでなく、江戸幕府、さらには日本全土へと昇仙峡の魅力を広めた。





# 14.あとながき

「昇仙峡」が観光地になったのは、山水の美に富む「昇仙峡」という場所に感動し、その魅力を多くの人に伝え広めてきたということが第一に言える。

元来、「昇仙峡」は、観光地にするために道を切り拓いたのではなく、地域の人々の暮らしを向上するために新道開削が行われ、その辛い作業の中で「昇仙峡」という美しい場所を発見したことによる。「昇仙峡」という場所は、神からのご褒美ではないのかとも考えさせるほど神秘的で、今現在もその美しさは変わっていない。その渓谷の美しさやストーリー性が魅力的であるため、「昇仙峡」は日本遺産に認定されることになったのだろう。

「昇仙峡」を広めた人々の中には、甲府第一高校の起原とされる「徽典館」に深く関わる人がいたことは、一高と「昇仙峡」との繋がりが読み取れる。さらに、徽典館には、世界を視野に、先生や生徒が切磋琢磨をしていた。江戸幕府の開国から近代への中に、多くの徽典館関係者を見つけた。現在、日本史の教科書の中には、小さな文字かあるいはその名前を見つけれないこともある。このような顕彰されるべき先人たちと接する機会を得たことを、これからの学びにも繋げたい。

2023年6月

# わたしたちの昇仙峡 おすすめスポット

## ✦✦ 弥三郎岳 ✦✦

”知る人ぞ知る昇仙峡の絶景スポットです”



昇仙峡のロープウェイから降りて左側の山道をずっと歩いた先に突如現れる幻の絶景です。一枚の岩からは、青い空、緑色の木々、山々が視界いっぱいになり、心が浄化されるような心地になります。まるで仙人になれるかのような圧巻の眺めとなっています。

私たちの初めての現地調査で訪れたとても思い出深い場所です。

高い場所が好きの方、心を入れ替えたい方、リフレッシュしたい方はぜひ訪れてみてください！

※足元はかなり危険になっておりますので万全な準備のもと安全に訪れてみてください。

